

獲麟ノ義ヲ屬續ト云喩ヘバ人ノ臨終ノ時以綿續屬鼻穴知息之終不終故ニ爾日也

〔日本靈異記〕中見鳥邪淫厭世修善緣第二

愛男子得病臨命終時而白母言飲母乳者應延我命母隨子言乳令飲病子子飲而歎之言噫乎捨母甜乳而我死哉即命終焉

〔大鏡〕内大臣道隆この殿藤原の御上戸はよくおはしましけるその御心のなををばりまでも

わすれ給はざりけるにや御病付てうせ給ひける時西にかきむけたてまつりて念佛申させ給

へと人々のすゝめたてまつりければ濟時朝光並酒友などもや極樂にはあらんずらんと仰け

るこそあはれなれ常に御心にならひおぼしたる事なればあの地獄のかなへのふたにかしら

うちあて三寶の御名おもひ出けん人のやうなる事なりや

〔古今著聞集〕宿執六はらの別當長慶は院禪がびはのでし也最後の時時元とぶらひに來りたり

けるにかきをこされて倍臚の唱歌今一度し給へ承らんといひければ時元いふがごとくにし

げればほろ／＼となきて聞けり入滅の時も秋風樂を聞て三帖喚頭に至程に遷化しにけり

〔吾妻鏡〕十二建久三年三月十六日戊子未剋京都飛脚參著去十三日寅剋太上法皇白河於六條殿

崩御御不豫大腹水云云召大原本城房上人爲御善知識高聲御念佛七十反御手結印契臨終正念

乍居如睡遷化云云

〔明月記〕正治二年正月廿八日兼時妻依所勞獲麟行山里云々

〔吾妻鏡〕二十三建保五年十一月十日甲申陸奥守大江依獲麟爲存命出家法名將軍源令左衛

門尉朝光訪之給

〔明月記〕寬喜二年三月廿二日甲寅祭主能隆依病獲麟獻辭書云々其子隆通當腹末子造宮隆雅男

長男現存之競望其替隆繼申所勞已獲麟以辭退不可有其隱重服者事居其職乎暫不被任者可修命